

稲垣 正晴・速水洋
志・齋藤 豊共著

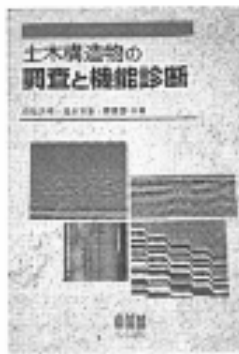


キタック社長
中山 輝也

『土木構造物の調査と機能診断』

維持管理の対策をわかりやすく

技術士達が書いた題名は硬い専門書のように思ったが、技術士の一人として手に取ってみて興味が湧く内容だった。従来の土木構造物の分類を静（居ること）、動（移動すること）、そして行動を支える静（建物）、動（道路）と区分している。地上に何の障害物もなければ土木構造物は不要だ。ところが、山、川、脆弱な地盤が



存在する現実の中では、土木構造物の必要性を説く。公共事業不要論の闊歩する中でも、今まで日本が整備したインフラは極めて重要であり、日本が先進国としての社会を維持する最低限のものである。新規事業にブレーキがかかり、今は維持管理の時代となっている。その対策のために、著者らが実際に携わった経験に基づく調査方法や解析結果を紹介し、これまでに実施した機能診断を進化させ、将来的挙動まで予測して対処する戦略的機能診断まで説明している。この地味な専門分野の技術者にとって大切な教科書でもあり参考書ともなるが、技術書らしくない文章でまとめてあり、誰でも簡単な理科の知識があれば寢床で読んでも結構楽しめる。

（オーム社 2835円）